



Star ☆☆☆

EXPRESS

<http://hoshinosato.info/>

3月の予定

2月28日 3月度授業料引落日
(3月8日 引き落とし予備日)
3月3日(土) 暗算検定(授業なし)
3月5日(月) 全日本ユース申込締切
3月11日(日) 西日本大会
3月20日(火・祝) 近畿大会決勝
3月26日(月)～3月31日(土)
そろばん春休み

そろばんの春休みは3月26日(月)～31日(土)です。

特別練習のお知らせ

西日本大会・近畿大会

※3月3日 3月10日 3月17日
5時～7時

西日本・近畿読上算特別練習

2月28日 3月1日 6日 8日
13日 15日 7時20分～8時

3月3日暗算検定について

1・準1・2・準2…8時30分開始
3級～6級 …9時開始

所要時間は約25分です。お迎えのお車は、9時5分・9時35分頃にお願ひします。受験生を送ってくる車が完全に終了した後にお迎えにきていただきますようご協力ください。

なお、試験日の都合が悪い場合は、

3月1・2日の授業中に実施しますので申し出てください。

試験日(3日)の通常授業は休講となりますのでご注意ください。毎回、何名か間違えて来ています。

☆3月11日西日本大会☆

集合…星田駅8時25分

帰り…星田駅18時頃

会場…大阪商業大学(近鉄河内小阪)

昼食の準備をしておいてください。電車賃は中学生で往復1000円以内です。

☆3月20日近畿大会について☆

集合時間などの詳細は追って連絡します。会場は奈良県産業会館(大和高田市)、昼食を持ってきて下さい。会場に早めに着いて昼食を済ませます。見学ができるかどうかは未定です。電車賃は支給されますので不要です。

☆全日本ユース珠算選手権大会☆

2012年度の表記大会が4月15日に京都・立命館小学校で開催されます。1級合格者以上で練習で基準点に達した生徒に出場資格があります。教室での申込締切は3月5日、参加料は2500円です。なお、大会の見学は誰でもできます。警備の都合上、見学だけの場合でも事前に申し込みが必要です。見学

を希望される皆さんは4月7日までに申し出てください。

近畿大会大阪府予選結果

1月29日に行われた表記大会で、代表選手全24名の内、当教室から過去最高の10名が選ばれました。

本大会に向けての特別練習や読上算練習がすでに始まっています。予定表を確認しておいて下さい。

当教室の大阪代表選手

◇中学生の部◇

桑原麻衣（生駒上中・1年） 5位

◇小学6年生の部◇

安原章太（妙見坂小） 1位

盛井元仁（私市小） 4位

酒井結衣（国松緑丘小） 5位

◇小学5年生の部◇

金本三夢（生駒台小） 1位

山口愛未（開成小） 2位

◇小学4年生以下の部◇

金本大夢（生駒台小・4年） 1位

金本愛夢（生駒台小・1年） 2位

大内峻聖（私市小・1年） 5位

大内悠聖（私市小・3年） 7位

2月12日実施1～3級検定

【1級合格】

荒木幸菜 落合将平 石上香菜子
鍵野佑登 田中麻奈美 中越菜々子
百田夏海

【2級合格】

山下湧 加茂和志 池田菜乃子
巽希美 関明日香 酒井克巳 木寺輝
西本朱里 岡野紗里 金田久慶

【3級合格】

大西賢斗 中家千裕 小野澤怜花
井手亮太 中越菜摘 木村征爾
岡田遥 木村美佑 四宮彩花
向井大輝 木村理仁 杉山元規

住吉美咲 今泉夏陽 中野楽 辻未佑
西田旭歩

☆今回の試験の合格率は過去最高でした。1級合格者7名のうち4名が中学生だったのも特筆すべき結果でした。勉強・クラブ活動とそろばん。時間をやりくりしながらこなしています。中学生になると忙しくなる分、集中力や目的意識が高まります。小学生の間に蓄えてきた力を発揮して、より高い次元に入っていくのが中学生で、種をまき、大切に育てて実をつける時期になります。

中高生の皆さん、事情の許す限り、そろばん学習を続けてみて下さい。そして続けられるのならば、思い切り集中して練習してみてください。きっと世界が広がっていくのを実感できると思います。

1級合格者の一言紹介

◎荒木幸菜さん（中1）

何回か悔しい思いをしましたが、そのたびに少しずつ力をつけてきました。みとり算100点は中学生ならではの落ち着きと集中力のなせる技です。

◎落合将平くん（中1）

数回日のチャレンジでの合格でした。今回の試験前の練習点は、過去の試験前に比べて最も低かったのですが、それで肩の力が抜け、開き直れたのかもかもしれません。

◎石上香菜子さん（中1）

「クラブ活動で試験を欠席するかもしれませんが、でも申し込みをしないと受けられないので申し込みをしますが、欠席という失礼なことをしても良いですか」と申込時に相談がありました。珠算学習開始から2年での1級合格はお見事の一言に尽きます。

◎百田夏海さん (中1)

今回合格した7名の中でも、直前の練習成績は群を抜く安定度でした。不得意種目が無く、練習量もバッチリで、余裕を持っての合格です。

◎鍵野佑登くん (小4)

試験直前練習での合格率13%、合格点240点に対して練習成績平均点は198点。野球の野村克也氏の言葉に、「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」というのがありますが、ふと思い出してしまいました。ただ、書いた答はほとんど間違えず、間違い直しはきっちりと最後までやり遂げる姿勢が合格につながったことは確かです。

◎田中麻奈美さん (小6)。

わからないところがあっても質問に来るのが苦手で、いつも後ろのほうに座ろうとしていたのが2年ほど前のことでしょうか。勇気を振り絞って殻を破り、座る席を改善したとたんにグングン実力がアップしていきました。「積極性が成功の鍵」の見本のような合格です。

◎中越菜々子さん (小6)。

珠算学習開始から1年半というスピード合格。ほとんど毎日出席しています。試験直前練習の成績を見る限りにおいては、合格にはもう少し時間がかかるかと思っていましたが、見事に予想を裏切ってくれました。

まじめさと熱心さと素直さ。伸びる要素をすべて兼ね備えています。

成長

小学1年生の男子生徒。何回か初歩教材を復習のためにやり直し、現在、かけ算開始前の暗算力と速度をつける「J1練習」を行っています。

テキスト練習をしていたはじめの頃、易しくてグングン進める間はよかったのですが、難しい問題にあたりたり間違いが続いたりするととたんの集中力が途切れてしまって、1時間の間に時計を見ること数十回。見ていない間は、鉛筆を触ったり指先をじっと見つめたり、そろばんとにらめっこをしたり・・・。

私と目が合うとバツの悪そうな顔をして練習を再開するので、直接注意をするという場面はあまりありませんでした。

ある日の授業中。しばらく時計を見ては、少し練習。また、しばらく時計を見ては少し練習といういつものペースで時間を過ごそうとしているその生徒が、珍しく？1分ほど連続してそろばんを触っている間に壁から時計を外し、その代わりに「みるな」と書いた紙を貼り付けておきました。

何も知らない生徒。いつものように時計のあるほうを振り向いて、ビックリ。漫画のように両の目ぱちくり、口あんぐりでした。

それが功を奏したのかどうかは彼がもっと大きくなってから尋ねてみようと思いますが、時計を見るのも諦めて比較的熱心にテキストに向かうようになりました。

そして現在、先述のように「J1練習」で自己記録との競争に明け暮れています。

先日の練習での出来事です。数名のグループで一斉に始めたところ、開始直後に彼の鉛筆の芯が折れてしまいました。すぐに鉛筆を与えることもできたのですが、意地悪な私は一体どうするのだろうとそのまま見守ることにしました。

彼は助けも求めず不満な顔も見せず、折れた芯を指先でつまんできっちりと答を書き、何事もなかったかのように計算を続けていきます。まるで、芯が鉛筆そのものであるかのような振る舞いです。

たぶん、以前なら心まで一緒に折れてしまっていたであろうはずなのにと、私は咄嗟に鉛筆を貸し出さなかったことに胸をなで下ろしました。

～アラカルトから～

当教室のホームページに「アラカルト」というコーナーがあります。塾報に書くような話を中心に時間がある時に書いています。この1か月間に書きましたもののなかから小文を転載してみます。

~~~~~

「ゴリラのおっさん」の話です。

ゴリラのおっさんとは、おいやめいにゴリラがいるおじさんのことではありません。

……書くまでもないか。

4歳で大阪に引っ越してきてから21歳まで住んでいた家の近くに大きな駐車場がありました。30台ほどは止められる青空の駐車場を10台分のシャッター付きの駐車場2つが両端から挟んでいる形でした。

甲子園が始まれば、そこはにわか甲子園に早変わり。ひいきのチームや選手になりきっては友達とピッチング練習です。友達がいない時は一人でブロック塀に向かってボールを投げます。きっちりと区切られているブロックはどこがストライクなのかがわかりやすく、格好の練習場所でした。

野球がシーズンオフのときは、にわか球場は、土遊び場に戻ります。コマを回したりビー玉遊びをしたりと、それはそれは

昭和時代ならどこでも見られた空き地の風景でした。

空き地…、遊んでいる子どもにとっては空き地なのですが、そこはきっちりと人の所有物であるガレージです。用もなく立ち入るのは不法侵入に違いありません。

ブロック塀には墨で黒々と「用ノ無イモノ立ち入ルベカラズ」と書いた札が掛けられていました。時にその札をストライクゾーンに見立ててボールをぶついたりもしていましたから、悪ガキもいいところです。

でもそんな悪ガキどもが何十人集まっても怖くて太刀打ちできない存在、それが、この駐車場の管理人かつ持ち主である「ゴリラのおっさん」です。ハヤテのように現れてハヤテのように去って行くのは昭和時代のヒーロー「月光仮面」ですが、バイクに乗る月光仮面よりもママチャリに乗って現れるゴリラのおっさんの方が速く走れるように思えたのは柳を見て幽霊と勘違いするのと同じ心理作用でした。

遊ぶ時には駐車場の四隅に誰かが見張りに立ちます。ゴリラのおっさんが遠くに現れると「ゴリラーっ」と叫びます。すると誰のものであっても関係なく手当たり次第に近くのものを持ってクモの子を散らすように逃げます。忘れ物をした時はジャンケンをして誰が取りに戻るかを決めますが、そのジャンケンたるや、もう命がけです。負けた時に素直に従うものなど誰もなく、後出しだの何だのと言いがかりをつけては再戦をするまで忘れ物を取りに戻りません。

子どもが駐車場で遊んでいるのを遠くから見つけた「ゴリラのおっさん」は、地鳴りのような大声で「こらっ」と怒鳴ります。今だとわかります。駐車場の車が傷

つくことだけを恐れているのではなく、不慮の事故で運転者も子どもも傷つくことを心配してお叱りだと。

でも当時はそんなことまでわかりません。子どもの本能がただひたすら「逃げる」と頭の中で叫ぶのです。

何せ、本物よりもゴリラに似た顔の持ち主なのです。

否、正確には似ていないのかもしれませんが、恐ろしくてまじまじと正視したことが無いのです。

そんなゴリラのおっさんでも笑顔を見せることがありました。あろうことか、私の父親と知り合いで、道で会ったり銭湯で会ったりするとこやかに世間話に興じているのです。そばで見ている私は、気が気でなく、条件反射のように成り立っている方程式「ゴリラ発見＝即、逃走」に必死になってあらがうのです。日頃から駐車場で遊ぶことを父親にも禁じられている身としては、ここで動揺を見せると「父親のゴリラ化」にも遭遇してしまうわけですから大変です。

\*\*\*\*\*

星の郷教室の教室1階は定員が68名です。頑張れば75名ほどは座れますが、指導スタッフが複数人いますので出席者が70名を超えれば2階教室も使います。

なるべく、テキストを進めていくことや試験前に時間を計って練習するといった練習内容がはっきりしている生徒たちを2階に座らせ、スタッフに指導を任せます。しかし、100名を超える出席者がいる場合は明確な基準にならない場合があったり、また遅れて出席する生徒は基準を無視して2階に行ってもらわなければならない場合もあります。

私は不審者対策もあって基本的には1階の出入口に近いところで指導しています。

入室時に出席者数を把握するためバーコードリーダーを使ってカウントしていきます、70名を超えると判断すると、2階教室への移動を指示します。そして練習開始となるわけですが、開始後数分から数十分経過すると、2階から1階へ座席移動を指示されて降りてくる生徒がチラホラと現れます。

集中力が欠けている、すべての問題を説明しないとやろうとしない、よそ見が多い、質問回数が異常に多い、トイレにいきりに行きたがる、顔を上げていて指導者と目が合ってもやろうとしない、注意に素直に従わないなどなど、いろいろな理由で「1階に行きなさい」と指示されてスゴスゴと降りてきます。強制移動の前には、「次、注意を受けると1階で練習してもらいます」という警告もあるようです。再指導を受けるために1階に降りてくる場合もありますが、そうではなく、上に挙げた例のような場合には降ろされた生徒たちは1階にいる私に強制移動の理由を告げなければなりません。2階のスタッフから直前に降りてくる生徒名と理由を私は聞いていますから、生徒は嘘がつけません。たまに理由を生徒自身が認識していない場合もあり、そうなるとう階に移動させるという指導の意味が無くなりますので、私はその理由を確認していくのです。本人の口から話させることにより、反省と自覚を促すことも狙っていることです。生徒は、バツの悪そうな顔をして小声で理由を話します。理由を話すことで十分に罰を受けていますので、私は再度叱ることはしません。

月曜日と金曜日、京都の私立小学校でそろばんの授業を行っています。1時間で2クラスを同時に5人の指導スタッフで見っていますが、この前、ふと隣のクラスをのぞいてみると「次、言うことを聞かな

ければ金本先生の横でやってもらおうよ」  
という声が聞こえ、言われた生徒が手と  
顔を大きく横に振っているのが見えました。

電車で靴をはいたまま座席に立とうとして  
いる子どもを見つけてしまいました。目  
で制止しようとしていたら母親が子  
どもに注意しました。「靴のまま立つとあ  
のおっちゃんに叱られるで…」

そう、いつの間にか私がかの「ゴリラのお  
っさん」になっていたのです。

せめてもう少し小型で若い「コアラのお  
兄さん」

それが無茶なら「ゴリラのおじさま」

それもだめなら「ゴリラのおじさん」

……

幼い頃の経験がこんなところで活かされ  
るとは…。

~~~~~

出席時間20時間以上の生徒

(2月20日までの1ヶ月)

山内星徳60 金本三夢48 盛井元仁47
山口愛未46 金本大夢46 桑原唯衣
44 桑原彩衣41 楠田知己37 金本愛
夢36 山内優歩36 中越菜々子35 酒
井克巳34 谷岡菜々子34 長尾侑美34
酒井結衣33 巽希美33 湊結子32
西島朝香31 濱野恵太30 窪田一誠30
木寺匠29 木寺輝29 山内美空29
北村彩28 福田陸人28 桑原麻衣26
奥田あさひ25 奥田南海25 梶原太智
25 竹下柊希25 西村梨留25 花岡棋
平25 古川愛佳25 安原章太25 池田
優花24 永井功久24 大内悠聖23 熊
田星麗23 西井颯一朗23 住吉美咲22
有本華帆22 黒田佳花22 越野貴也
22 塚本旬22 西本朱里21 今泉夏陽
21 大内峻聖21 小野澤怜花21 越野
直希21 楓まい21 田伐志帆21 佃花
音21 竹下椋香21 中島萌唯21 森遥

香21 落合由之佑20 藤野柚季20 森
岡賢一20 山根建太朗20 今泉優衣20
黒木康平20 川崎悠平20 黒田幸花
20 北森遥弥20 北森彩月20 塚本裕
策20 藤田純菜20 森岡優海20

猛スピードばく進中(PERFECT)

(初歩教材PERFECTを1ヶ月で20ペ
ージ以上進んだ生徒)

西井颯一朗88 出合祐喜57 若林秀星
54 池田優花45 中西夏生45 出合拓
翔43 越野貴也42 入口寛都41 宇佐
美碧海39 中村如月34 出野侑季33
小田一葉31 松田拓也25 金井叶斗24
仲井心琴23 有本仁栄20

猛スピードばく進中(瞬達)

(初歩教材「瞬達」を1ヶ月で5ペ
ージ以上進んだ生徒)

前西かえで19 森本倫才19 石上綾音
17 松下周子17 梶原太智16 齋藤小
春16 沼田賢志郎16 松井咲帆16 兼
松咲菜15 竹下椋香14 村上小夏14
松下紀子14 足立歩大13 楠田知己13
松野未佳13 山口匠史13 東阪怜奈
12 黒木康平11 若林日和11 岡田洸
11 住吉海飛11 白川香乃10 田中友
子10 田丸香月10 西村渉利10 古川
和佳10 今井麻奈未9 前田小春9 石
田優麻9 河田青大9 田邊美空9 西
本匠吾9 東阪太陽9 眞井夏希9 北
村彩8 加地優真8 仲谷愛花8 西村
梨留8 吉永灯8 渡部愛弓8 今井翔
太7 明浦日香7 越野貴也7 佐藤日
奈子7 古川愛佳7 岡崎稜平6 久保
田裕翔6 津崎菜々子6 西村結実6
平井望彩6 山本夕有花6 吉見優里6
吉永颯6 吉田魁馬6 今泉優衣5
安達菜々美5 伊藤優生5 小石恭馬5
桑原彩衣5 小西真雪5 高橋恵太5

フラッシュ暗算合格者

(2月20日までの1ヶ月間)

- 七段** 酒井克巳
六段 藤田純菜
四段 窪田一誠 山内星徳
三段 窪田一誠
二段 楓まい 田伐志帆 西島朝香
初段 岡田遥 巽希美
1級 奥田南海 関明日香 中上慶祐
福島梨沙子
2級 石上綾音
3級 川崎龍一 野口拓海 松井咲帆
4級 下岡芽生 塚本旬 中野楽
松下菜々
5級 松下菜々 小川千尋 加地優真
北村彩 北森彩月 白川香乃
田丸香月 沼田賢志郎
村垣夏南 森遥香 松下紀子
6級 松下菜々 沼田賢志郎 森遥香
村垣夏南 松下紀子 伊賀敬弘
住吉海飛 高橋恵太 西村渉利
古川愛佳 山口匠史
7級 松下菜々 沼田賢志郎 森遥香
村垣夏南 西村渉利 古川愛佳
井手蒼人 森本倫才
8級 沼田賢志郎 井手蒼人 木寺匠
赤井順哉 山本莉奈
9級 井手蒼人 木寺匠 井上寛大
上山敬大 高森菜々美 本間響
松本心晴
10級 井手蒼人 木寺匠 井上寛大
上山敬大 本間響 松本心晴
阪口隼都 田丸彩月

☆いつ頃のことか記憶が定かではありません。

フジテレビの「プロ野球ニュース」という番組で、ファンがタイガースの

応援旗でホームランのボールに触れた瞬間の映像を流していました。それを見て咄嗟に頭に浮かんだダジャレが「旗迷惑」。これはどこかで使えるかと一人ほくそ笑んでいたところ、カメラはスタジオにいるアナウンサーを映しました。

アナウンサー氏が、ぽつりと一言、「こういうのを『はた迷惑』というんですね」。

もう使えない、とガックリの私。

誰もその番組を見ていないとしても、真似をしているようで恥ずかしい気持ちが消えないだろうなと考えると、使えない思いになったのです。

で、なぜこんなことを思い出したかということ、実は、つい2～3日前まで再放送していました「ドラゴン桜」というドラマで、「はた迷惑」事件と同じことが起こっていたからなのです。

このドラマは、偏差値の低い高校生たちが鍛え上げられて東大に現役合格するというストーリーで、阿部寛さん扮する弁護士（教師）が、綿密な計画と強力な実行力、計算し尽くした理論で周囲の教師や生徒を巻き込んでいくドラマです。

家族に勧められて再放送を見てビックリ。主人公が他の教師に話している台詞が、私が今まで講習会や生徒表彰式で保護者向けに話してきた内容と、非常に似ているのです。たとえ話まで似ていて、見ていてだんだん薄ら寒くなってきました。

ドラマを見たことのある人に、私がドラマの受け売りをしていると思われるやしなかったかと一瞬頭をよぎりましたが、話している本人が覚えているだけで、杞憂に過ぎないのは当然のことです。

星の郷教室は東大を直接目指すところではありませんが、生徒たちを鍛えて、自分で道を切り開いていく力をつけていく子どもたちに寄り添うという目的においては、ドラマと同じです。同じ方向を見ているわけですから、似通っていても何ら不思議ではなく、むしろ当然のことなのかもしれません。

でも……………。

でも、なんとなく今後は話しづらくなったなあと思う今日この頃です。

—————

☆「もうあと一押しあればできるようになるのに…」 「もっと難しい問題をやってみたい」

学校でする学習、家庭でする宿題、その他の通信教育など、日々のちょっとした疑問にすぐにこたえられるような、そしてさらに学習を進めてみたいという欲求にすぐにこたえられるような空間があれば、学習面では一層充実した毎日を送れるだろうに思うことがよくあります。

そろばん学習では、いつまでに、何をどれだけしなければならないというしぼりはありません。ですから、期間を限定せずに、できるまで何度でも繰り返すことができます。そうすることでようやく理解が進む生徒がいるのも事実です。

ではこういった生徒の皆さんは、決まった時間で決まったことを教えて頂き、それが終わると次に自動的に進んでいってしまう制度を宿命的に抱えなければならない学校では一体どうしているのでしょうか。

また、その逆もあります。無学年制で、練習時間も自由なそろばんでは、驚くほどの早さで進んでいく生徒がいます。集中力・根気・負けん気・向上

心・理解力・素直さなど、およそ伸びるために必要な条件をすべて兼ね備えているか、あるいは練習を重ねていく間にどんどん開花させていく生徒たちです。こういった生徒たちは、学校ではどうしているのでしょうか。もちろん、学校では学習面だけでなく社会性も学習しますから学ばなければならないことは一杯あるわけですが、どこかでしなくても良い我慢をしていることはないのでしょうか。しなければならない我慢は買ってでもしなければなりません。標準の上にも下にもはみ出ってしまった人たちが学習面でしなければならない我慢は、はたして必要な我慢なのでしょうか。適材を与えられた中での我慢と適材を与えられない我慢は区別しなければならないと思うのですがいかがでしょうか。

こういったことから、星の郷教室の学習科の復活を考えています。

私自身、20年ほど学習塾で指導してきましたが、現在は珠算指導で手が一杯の状態でなかなか学習塾の指導を中心になって行うことはできません。

そこでどなたか、前述のような考えをご理解頂き、学習科の中心になって生徒指導を試みようとか、学習塾を開設する場所を探しているというような方がいらっしゃいましたらご紹介いただけないのでしょうか。

そろばんで培ってきている自学自習の習慣と集中力を学習面でも発揮できる場を是非作りたいと思います。

—————

☆珠算科に在籍している中学生の皆さん向けに、月曜日と水曜日の午後7時20分からの1時間、教室2階が空いていますので、自習教室として開放します。是非活用して下さい。